



介護業界向け RPA導入ガイド

RPA GUIDEBOOK



！ 介護業界のいま

日本は要介護者が増加しており、厚生労働省によると、2021年度の要介護（要支援）認定者数は約682万人と、2000年度の218万人に比べ約3倍の増加となっています。これらの要介護者を支えるために必要な介護職員の数は2025年度で243万人と予想され、ますます介護人材を増やす必要があると言えます。

しかしながら、2020年度に実施した「介護労働実態調査」によると、介護労働者における高齢化が年々進んでおり、全体の23.8%が60歳、平均年齢は49.9歳と人材の高齢化が進んでいる状況となっています。

介護業界は、今後さらに介護人材が必要になってくるにもかかわらず、人手を増やすことが困難な状況であるため、「労働力の確保と効率化を通じた生産性向上」が急務となっています。



1

圧倒的な売手市場で採用困難

有効求人倍率は3.68倍（全職種：1.20倍）^{注4}。

資格取得が可能な研修の開催など、
就業環境の充実を図りながら求人を続けていてもなかなか求人が集まらない。

注4：一般職業紹介状況(令和4年1月分)についてより

2

高い離職率

チームワークや共同作業が求められる場面が多く、人間関係で離職が左右される。
また、長時間労働や同水準の職種と比べて比較的により低い賃金も離職に繋がっている。

3

サービスの質の低下

介護人材の人手不足と高齢化が進行している中、
職員一人ひとりへの負担が大きくなり、介護サービスの質の低下が発生している。



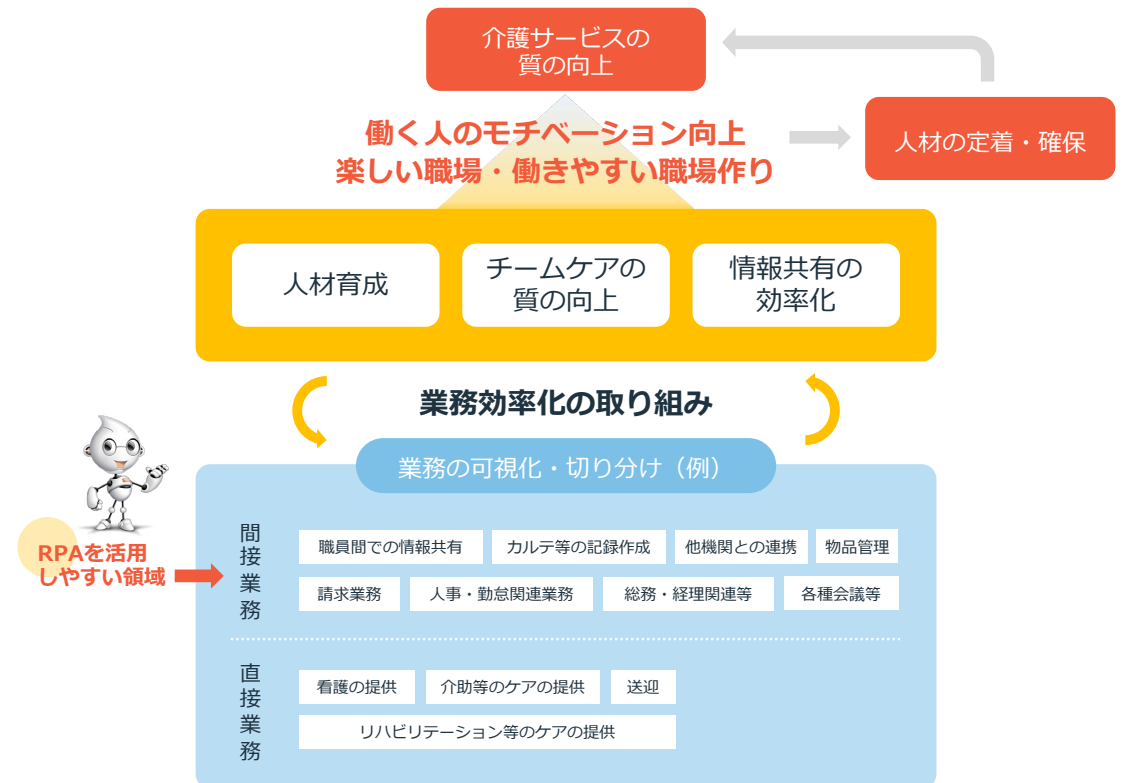
介護業界の業務効率化の考え方

RPA活用による業務効率化で、職員の間接業務の負担を軽減し
利用者の介護時間を増やすなどサービスの品質向上を実現することが目的です。

介護業界では「介護サービスの質の向上」のために業務改善に取り組んでおり、その意義は「人材育成」「チームケアの質の向上」「情報共有の効率化」であると言えます。

また、業務改善を通して、楽しい職場・働きやすい職場を実現し、働く人のモチベーションを向上させることで、人材の定着・確保へ繋げることを目指しています。

介護業界で効率化が見込める主な業務として「介護記録」「就業管理」「人事管理」「セキュリティー」の4つがあり、特に「介護記録」はデジタル化によって大きく生産性向上が期待できるため、RPAの活用が有効な領域だと言えます。





RPA とは

RPA (Robotic Process Automation) とは、
私たちが日々行っているパソコン上での一連の作業を効率化してくれる
“ソフトウェアのロボット”です。



単純作業における
人的ミス



慢性的な人手不足



属人的に
なっている業務

RPAによってルーチンワークを自動化することで
多くの課題を解決へと導きます。



RPA ができること



業界・業種に関わらず、あらゆる業務の自動化を実現します。



介護業界でRPAができること





介護業界での RPA活用事例

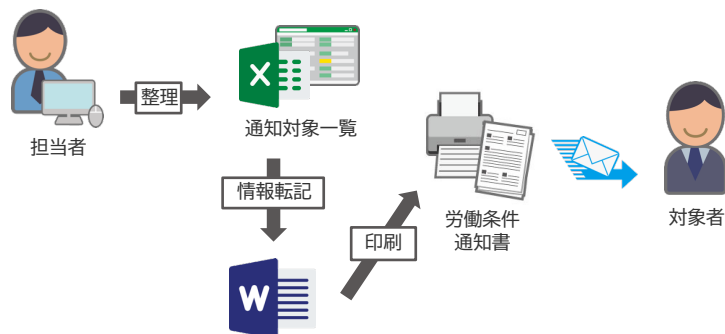


介護業界でのRPA活用事例 ①

労働条件通知書の自動作成業務

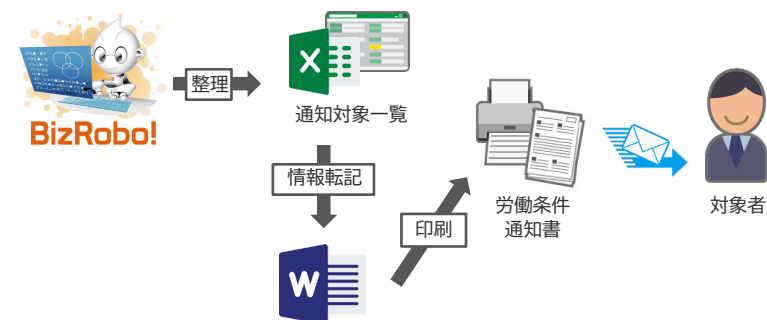
- ・年2回発生する業務だが（1回は約100件）、繁忙期のため作成に担当者の負担がかかっていた
- ・データを整理する単純な転記作業の繰り返しであり、ロボットに代行させるのが適切と判断した

Before



- ① 担当者が通知対象となる職員の一覧リストを整理する
- ② 労働条件通知書を作成・印刷
- ③ 通知書を対象者に送付

After



- ① ロボットが通知対象となる職員の一覧リストを整理する
- ② 労働条件通知書を作成・印刷
- ③ 担当者が通知書を対象者に送付

- ・忙しい時期に余剰時間を創出、担当者は他業務に注力できるようになった
- ・担当者の負担が軽減した他、ヒューマンエラーも防止できた

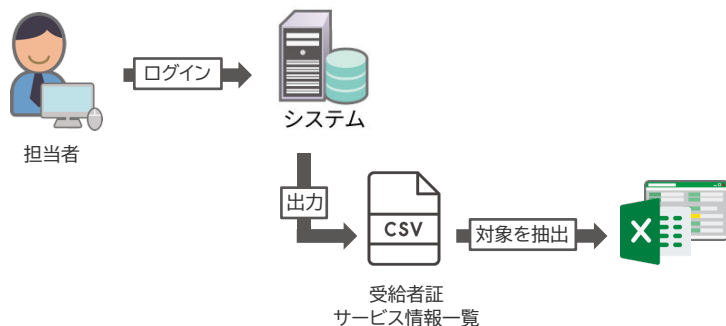


介護業界でのRPA活用事例 ②

期限切れの障害受給者証を抽出する業務

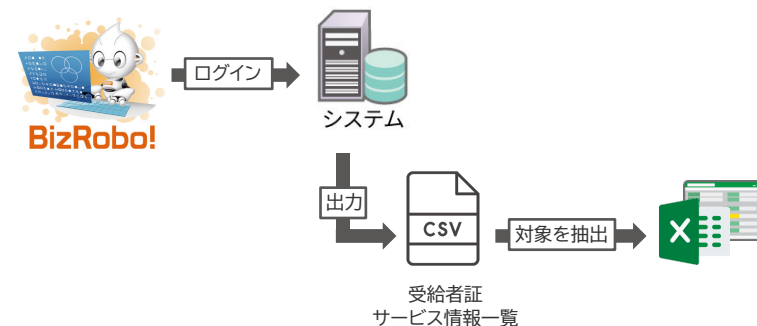
- ・月1回、15~30分ほどかけている業務
- ・作業時間が多くはないが、毎月必ず実施する必要がある定型業務であるため、ロボットに代行させるのが適切と判断した

Before



- ① 担当者が福祉総合システムから受給者証サービス情報一覧 (CSVファイル) をダウンロード
- ② 支給終了日が2ヶ月先の利用者を抽出し、EXCEL形式で保存

After



- ① ロボットが福祉総合システムから受給者証サービス情報一覧 (CSVファイル) をダウンロード
- ② 支給終了日が2ヶ月先の利用者を抽出し、EXCEL形式で保存

ロボットの導入により単純なデータダウンロード・抽出作業がなくなったため、担当者が他の優先度が高い業務に集中できるようになりモチベーション向上に大きくつながった

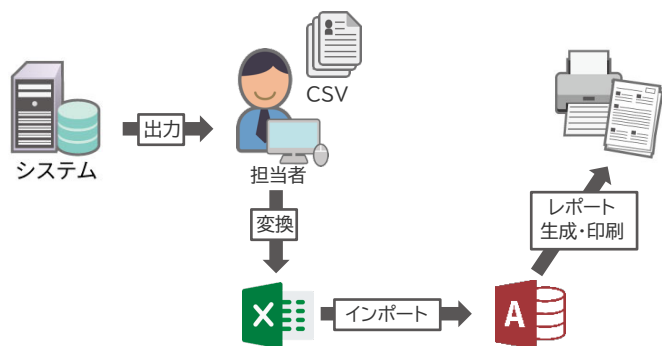


介護業界でのRPA活用事例 ③

前月分の居宅サービス計画書を点検する業務

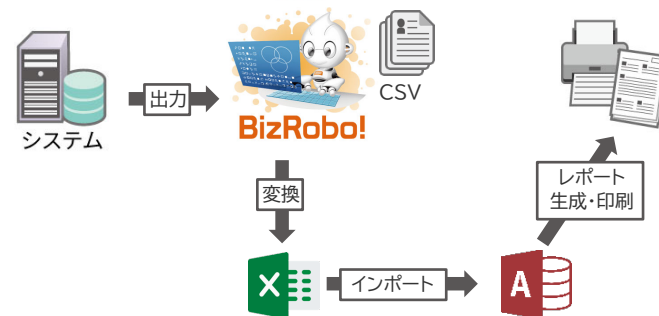
- ・月に2回発生する業務で、作成に担当者の負担がかかっていた
- ・書類作成の手順が煩雑で、ミスが発生しやすい

Before



- ① 担当者が福祉総合システムから点検に必要なデータのCSVファイルを出力し、Excelファイルに変換
- ② Accessにデータをインポートし、クエリを実行
- ③ 生成されたレポートを印刷

After



- ① ロボットが福祉総合システムから点検に必要なデータのCSVファイルを出力し、Excelファイルに変換
- ② Accessにデータをインポートし、クエリを実行
- ③ 生成されたレポートを印刷

- ・書類作成をミスなく代行できるため、担当者の負担を軽減
- ・月2時間程度だが、ロボットが完全に業務を代行し、担当者をルーティンワークから解放

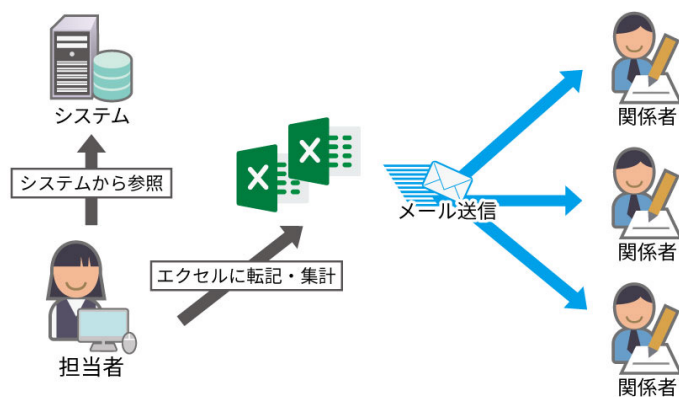


介護業界でのRPA活用事例 ④

職員の超過勤務時間を集計する業務

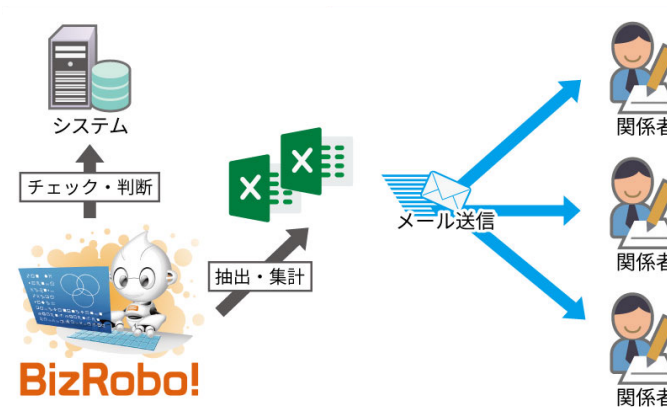
・毎月、先月のデータを読み込み当月のデータに超過勤務時間を転記・加算する作業に時間がかかっていた

Before



- ① 担当者が勤怠管理対象の名簿をリストアップ、勤怠状況をシステムで参照
- ② 超過勤務時間のある職員の勤務データを別途エクセルに転記
- ③ 当月までの時間を合計し、まとめたデータを関係者に送付

After



- ① ロボットが職員の勤務データを全て確認し、超過勤務の職員を判別
- ② 当月に超過勤務のある職員のデータを抽出し、合計時間などをまとめたデータを関係者に送付

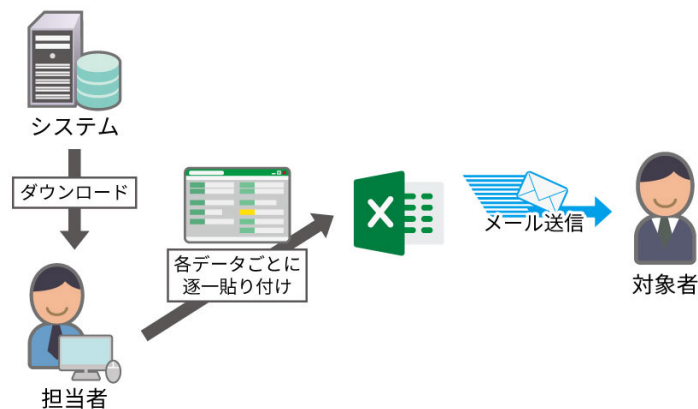
- ・年間50時間の業務時間を短縮
- ・職員別の超過勤務時間の可視化が行えるようになり、部署ごとの勤務状況を加味した業務時間短縮の立案につながった



給与明細メール送信業務

- ・システムからデータをダウンロードするのに非常に時間がかかっていた
- ・人手で作業を行うと、長時間拘束されてしまい、精神的な負担が大きかった
- ・データの転記ミスや資料の添付忘れが発生していた

Before



- ① 担当者がシステムから当月の給与データをダウンロード
- ② テンプレートのエクセルファイルにデータを貼り付け・加工
- ③ 作成した給与明細データを対象者にメール送信

After



- ① ロボットがシステムから当月の給与データをダウンロード
- ② テンプレートのエクセルファイルにデータを貼り付け・加工
- ③ 作成した給与明細データを対象者にメール送信

- ・年間85時間の余剰時間を創出した
- ・単純作業かつ長時間の待機から担当者が解放された
- ・データの転記ミス・資料の添付忘れがなくなり、業務の正確性も高められた



導入までの流れ



ユーザー企業

自動化業務
の洗い出し

対象業務の優先順位付
け、トライアルの進行
やスケジュール、サ
ポート等の打ち合わせ

無料トライ
アルで操
作感の確認と
ロボ作成

導入要件を
満たすかの
検証

導入判断

導入の場合は、運用保守、
オンボーディングの打ち
合わせ



弊社

同業種の自
動化事例の
提示

進捗に応じた
伴走サポート、
疎通検証等

不足情報の
提供や効果
検証の支援

複数製品の比較ポイントの整理

比較中製品の比較ポイントの確認 (2~3社がおすすめ)



ご相談、お問合せはこちらまで



<https://rpa-technologies.com/inquiry/contact>

全国10拠点どこからでもご支援可能！
まずはお気軽にお問合せをください！



OPEN オープン株式会社について

会社名	オープン株式会社
持ち株会社	オープングループ株式会社【東証プライム：6572】
設立	2013年7月
代表者	代表取締役執行役員社長 石井 岳之
所在地	東京都港区虎ノ門1-23-1 虎ノ門ヒルズ森タワー8F
事業内容	スマートロボット（RPA、AI）を活用した情報処理サービス、コンサルタント事業 スマートロボット（RPA、AI）を活用したアウトソーシング事業 スマートロボット（RPA、AI）を活用したデジタルマーケティング、オンライン広告事業



法人名

一般社団法人メディカルRPA協会

設立

2019年9月6日

代表者

理事長	石黒 直樹 (愛知県医療療育総合センター総長)
理事	相澤 孝夫 (相澤病院最高経営責任者)
理事	亀田 義人 (千葉大学医学部附属病院長企画室/病院経営管理学研究センター特任講師)
理事	堺 常雄 (株式会社日本病院共済会代表取締役)
理事	高瀬 義昌 (公益財団法人日米医学医療交流財団理事/医療法人社団至高会理事長)
理事	中田 典生 (東京慈恵会医科大学准教授/総合医科学研究センター超音波応用開発研究部部長)
理事	永冢 清考 (名古屋大学医学部附属病院 副病院長/事務部長)
理事	村山 典久 (東京慈恵会医科大学 学長アドバイザー)
理事	山本 尚範 (名古屋大学大学院医学系研究科救急集中治療医学分野医局長)
理事	大角 暢之 (一般社団法人日本RPA協会 代表理事)
監事	木村 浩司 (一般社団法人日本RPA協会事務局次長)

所在地

東京都港区虎ノ門1-23-1 虎ノ門ヒルズ 森タワー8F

設立趣旨

本協会は、医療・看護・介護といった命に関わる現場の皆様が安心して働き続けられる環境づくりのために、RPA の普及・啓発を推進し、医療業界の働き方改革に貢献することを目的としています。

BizRobo!

楽しい時代へ進化する
日本のRPAはBizRobo!から



BizRobo!についての情報はこちら

 <https://rpa-technologies.com>